

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 グッドな農業を目指すGAP推進PR事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農産園芸課ぎふ清流GAP推進係 電話番号：058-272-1111(内2868)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,500 千円 (前年度予算額：2,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,500	1,250	0	0	0	0	0	0	1,250
要求額	2,500	1,250	0	0	0	0	0	0	1,250
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・将来にわたって食料の安定供給を図るために国が「みどりの食料システム戦略」を策定し、持続可能な食料生産の基盤となるGAPの取組みの普及は急務となっている。
- ・GAP推進拠点組織を設置し、新たなぎふ清流GAP評価制度を創設して、県内農業者のGAP取組み意欲が高まっているが、消費者のGAPに対する認知度は低く、農業者のGAP取組みが理解されていない。
- ・ぎふ清流GAP評価制度は、一定水準を満たす農業者にロゴマークを農産物等へ表示しPRでき、消費者にも安全・安心な農産物を購入できるメリットがある。農業者等から、消費者等へPRできる資材作成の支援を要望されている。

(2) 事業内容

①GAPのPR資材の作成支援

ぎふ清流GAP評価制度のロゴマーク等を活用したGAPのPR資材作成を支援

- ・事業実施主体：ぎふ清流GAP評価制度の認証者、関係団体（全国農業協同組合連合会岐阜県本部、岐阜県園芸特産振興会、一般社団法人ぎふクリーン農業研究センター、市町村、農業協同組合など）

- ・補助対象：包装資材の版代、ロゴマークシール、チラシ、ポスター、ポップなど作成費

(3) 県負担・補助率の考え方

①県：1/3以内

(4) 類似事業の有無

グッドな農業を目指すGAP推進PR事業(農産園芸課)

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	2,500	ぎふ清流GAP評価制度のロゴマーク等を活用して消費者へPRする資材作成に要する経費を助成する。
合計	2,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略(施策編)
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信
 - ④「ぎふブランド」づくり
- ぎふ農業・農村基本計画
 - (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり
 - ②安心と信頼を届ける農畜水産物の生産展開

(2) 国・他県の状況

- ・国令和12年度目標：ほぼ全ての国内産地で国際水準のGAPを実施
- ・近隣県は同様の予算はない。
- ・国策定の「みどりの食料システム戦略」の具体的な取組みにおいて、本事業の主旨に沿った「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」及び「労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大」が位置づけ。

(3) 事業主体及びその妥当性

- ・GAPは農業者、消費者にもメリットがあるため、支援を行うことで、県内生産者へGAPが普及・定着する。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	グッドな農業を目指すGAP推進PR事業費補助金
補助事業者(団体)	ぎふ清流GAP認証者、市町村、全国農業協同組合連合会岐阜県本部、農業協同組合、岐阜県園芸特産振興会、(一社)ぎふクリーン農業研究センター (理由) 認証ロゴマークを使用できる認証者、農業者の支援を行っている関係団体であるため。
補助事業の概要	(目的) ぎふ清流GAP農林産物の販売促進と消費者への認知度向上 (内容) 認証ロゴマークを活用した農林産物の販売促進資材及び普及啓発資材等の制作に必要な経費を支援する。
補助率・補助単価等	定率 (内容) 1/3以内、上限額最大300千円 (理由) 過去の「ぎふクリーン農業販売促進事業費補助金」等の事例を参考にした。
補助効果	認知度向上により、GAPの取組みが普及・定着する
終期の設定	終期 令和7年度 (理由) 「ぎふ農業・農村基本計画」の令和7年度の目標達成に向け、GAPの定着を図る上で、販売促進の支援は不可欠である。

(事業目標)

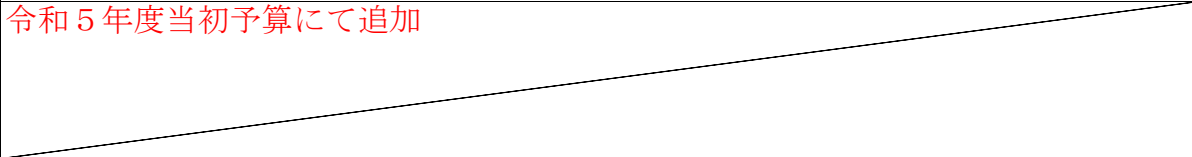
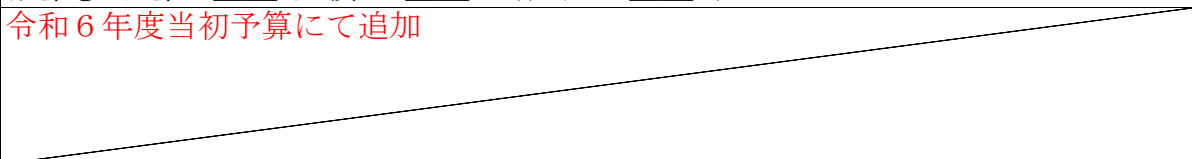
<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>消費者等へのぎふ清流GAP農産物のPR、販売促進を図り、ぎふ清流GAPの認知度を令和7年度までに25%に増加させる。</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前(H2)	R3年度目標	R4年度目標	R5年度目標	終期目標(R7)	達成率
①消費者のぎふ清流GAP認知度	-	10%	13%	17%	25%	/

補助金交付実績 (単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度
	-	-	-

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ぎふ清流GAP評価制度の運用を開始。 評価機関として「ぎふ清流GAP推進センター」を設置。
	指標① 目標：25% 実績： - 達成率： -
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> 
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> 
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	<p>県民の「食の安全・安心」や環境保全への関心が高まり、また持続可能な農業の実現には、農業現場におけるGAPの普及は重要であり、その取組みの消費者等へのPRは必要である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価) 2	<p>令和3年度10月末現在で2件の事業が実施されているが、ぎふ清流GAP認証者は今後増えていくため、期待通り消費者等へのPRがなされる見込み。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	<p>計画承認、交付決定等を農林事務所に事務委任することで、現地の実情に即した効率的な事業の実施を可能としている。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 大きな産地の組織では、先行して一部の農業者がGAPに取り組む場合、販売が。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 他事業で行う農業者へのGAPの取組みの推進と、当事業で行う消費者、流通業者等の認知度を高め、GAP農産物の需要を増やす取組みを両輪で行うことで相乗効果を期待できる。
--